

# 潮流

宮本徹・丸井織物社長に聞く

極細の糸を使った軽量素材の人気が続いている。足もとではフル操業が続く北陸産地も、不安が生じ、中国の需給バランスが悪化の道をたどる。足もとではフル操業が続く北陸産地も、不安が生じ、中国の需給バランスが悪化の道をたどる。足もとではフル操業が続く北陸産地も、不安が生じ、中国の需給バランスが悪化の道をたどる。足もとではフル操業が続く北陸産地も、不安が生じ、中国の需給バランスが悪化の道をたどる。

物の宮本徹社長に今後の見通しを聞いた。



— 現状の受注状況、市場の動向はいかがでしょうか。

年内の生産に関しては全体として契約できるわけではないが、軽量ダウン素材などスポーツ

— 今年は久々の増設も決められた。

昨年実績の53億円を2ケタ%上回る売り上げを

需要家が何を望んでいるのか、メーカーとして知る必要があります。そのためには常に感度を養うことが大事で、展示会への出展などを通じて昨年

## 足もと好調も需給に不安

ウエア用途がけん引してほぼ埋まるものとみていいます。しかし、ここにきて円高の影響がじわじわと広がり、太デニールの織物の動きが一時に比べ鈍くなっています。ギリシャのデフォルト問題にみられるように欧米経

ル生産が続き、約2年間こうした状況が続くことになります。ただし、欧米での需要減、中国の内需一きたが、設備が純増となるのは10年以上ぶりです。丸井織物の新設機は

世界の合纖需給の不安要素になるため、市場に楽観はしていないが、事業観はしていないが、事業

スポーツを軸に商品開発の手は緩めない。経済の複合織物で短纖維の加工場と連携して商品作りを進めることもあります。機能性、快適性を備えた素材を内外に供給しています。

題は。

— 来期に向けた課題は。

受託生産を基本に原糸メーカー、染工場とコラボレーションしながら事

济に不安が生じ、中国からの欧米向け輸出に黄信号がともると日本にも当

— 生産はフル操業下にあります。

2010年初めからフランクに当社から147台を移設し、当社には同規格の新型織機を導入しました。グローブとしてスクランプ&ビルドを進めてラップ&ビルドを進めて

ベースにややこれまでとを高めるのが狙いです。業を進めるスタンスは変わりません。ただ、最終的には常に感度を養うことが大事で、展示会への出展などを通じて昨年創設した「マルイトックス」の認知度を高めたいと考えています。

— 今12月期の見通しは。